

とてもとても厳しい暑さが続いております。梅雨とは思えない今年の梅雨でした。雨を待ち望みながら あちこちで色鮮やかに 精一杯 命を輝かせている紫陽花たちが何だか切なく忍びなく感じてしまいます。かたつむりやカエル、小さな動物たちにも つらく苦しいこの時期なのかもしれない…と子ども達と話しながら 祈るこの頃です。これから訪れる“ほんとうの”夏の暑さは いかばかりかと、対策に不安を覚えつつ 子ども達にとって、思う存分 夏ならではの季節感を味わえる、心満たされる毎日を みんなで分かち合い 楽しみながら、いろいろ工夫して 過ごしていきたいと思います。酷暑の中 お仕事に出られる保護者の皆様も どうぞご自愛下さい。お祈りしています。

さて 先月6月14日(土)には、毎年恒例の『同窓会』が 賑やかに開催されました。心も身体も頼もしく逞しく成長した6年生たちから、つい2か月前に巣立って行った小学生になりたての1年生たちまで、つのぶえの 愛する卒園生が 大勢集まりました。今年は 昨年度からの 本人達の熱いリクエストに応じて、中学1年生も集合しました。退職した先生達も この日を覚えて足を運んで下さって、本当に懐かしく 感謝でした。こんな風に皆の顔が一堂に会するこの日は、私達にとっても心躍る喜びでワクワク！再会の喜びに いつも胸がいっぱいになってしまいます。どの子も皆 ひとりひとり、当時の幼くて可愛い姿がよみがえってきて、一気に時間が逆戻りしたような想いです。最初は 緊張して少しぎこちなかったり はにかんだりする子も 何人か見られますが、あっという間に 屈託のない笑顔でおしゃべりし合い、学年や学校や性別等などにもこだわることなく互いに打ち解けている姿は昔のまま！さすが“つのぶえっこ”です。新1年生たちも 初めて味わう 賑やかで温かな先輩たちの 独特な同窓会の雰囲気、初めは驚き 戸惑った様子で 小さくなっていましたが、でも、保育園の勝手は誰より一番知っていることに気づき、急に“余裕”を見せ、堂々と仲間に加わっていました。礼拝の際の 主の祈りや讃美歌の声も大きく 堂々としていて、とても可愛かったです。年に1度、ほんの数時間の ささやかな再会の時ですが、子ども達も私達も それぞれ時を超え、心と立ち止まり、自分に立ち返ることができるこの機会を与えられていることに、心から感謝しています。何日も前からずっと この時を心待ちにしていたと子ども達から聞く度に、これからも変わることなく、子ども達が“帰って来られる”心のふるさと、子ども達の心を潤すオアシスであり続けようと 改めて思われます。

開会の礼拝では、子ども達へ『あなたたちはひとりじゃない』という祈りを込めて
今回、文豪ヴィクトル・ユゴーの 不朽の名作である『レ・ミゼラブル』の 主人公の
ジャン・バルジャンという人の生涯から、私自身が感じてきた想いを皆に語りました。
この作品は、ミュージカルでも日本ではチケットの入手が非常に困難といわれている
大変人気がある舞台としても有名です。かつて先生達とも観賞したことも伝えながら、
「ぜひ皆に 読んでほしい！ 観てほしい！と願っているととても素晴らしい作品だよ。」
と薦めると 興味を持った子ども達もいました。そして、なぜ私がそう感じているか
大まかなあらすじと共に、バルジャンの“立ち止まる” “常に神さまに語りかける”
“自分の正直な心と向き合う” という【生きる姿勢】について子ども達に語りました

「生きるということは楽しいことや喜びと共に失敗や挫折もある。でもそれはすべて
神さまから与えられるもの。それぞれにふさわしい幸せや壁がある。だから大丈夫！
神様は皆の心を御存知。どんな時でも バルジャンのように神様と話してみしてほしい。
自分の素直な心の声を聴くこと。神様が自分に望んでいることは何かを考えてほしい。
いっしょうけんめい、ひたすら心と頭を使って感じることを、考えることをしてほしい。
これは神様が喜ぶことなのか これをすることは 自分らしく生きられることなのか。
自分自身と向き合って 自分自身に尋ねてみてほしい。それが 祈ることだから。
どうか 自分の心をいつでも大切にしてくれ。自分自身を信じることを 大切にしてくれ。
皆が忘れても 神様は皆を忘れない。どんな時でもイエスさまがそばにいてくれるよ。
皆は ひとりじゃないからね。そして、皆を想って 先生達は 保育園から祈ってるよ。」

全員が 静かに まっすぐなまなざしで見つめ、真剣に耳を傾けていた子ども達でした。
また 来年の再会を願いながら、愛する子ども達ひとりひとりの上に それぞれが歩む
道のりの上に、神様の豊かな祝福と平安を心から祈り続けたいと思います。(石田 記)

「私の助けは、天地を造られた主から来る。… 主は、あなたを守る方。」

(詩篇 122:2・5)」